

2004. 11/27 白井市環境講義(概要) ー 植生の解析 ー

1. 植物に関する基礎用語

- ・植物相（フロラ）
- ・植生
- ・植物生態学など

2. 植物の生態的な分類

- ・生活型による分け方
 休眠型、生育型、繁殖型

3. 生育地による分類

植物の生育地は、環境の変化に応じて分類することができる。白井市周辺および千葉県でみられる生育地による分類について以下に示す。

1) 人里の植物

- ・畑地の植物、水田の植物、路傍の植物、やぶの植物

2) 水辺の植物

- ・池沼の植物、湿地の植物、川辺の植物

3) 草原の植物

4) 雑木林の植物

5) 照葉樹林の植物

6) その他（白井市ではみられない植物）

- ①海岸の植物、②高原の植物、③高山の植物、④亜高山の植物

4. 植物の生活パターン

- ・植物種間の競争
- ・遷移など

5. 人間の活動が植物に及ぼす影響

- 1) 草刈り、火入れ、放牧、農耕による影響
- 2) 宅地造成などの開発による影響（事例も入れる）
- 3) 外来植物の侵入状況（事例も入れる）

セイタカアワダチソウ、オニウシノケグサ、シナダレスズメガヤなどの侵入事例。

6. 植物の保全・再生の必要性

- 1) 動物（哺乳類、両生・爬虫類、昆虫類、鳥類）の生息の基盤となる。
- 2) 生物多様性の維持
- 3) 希少種・固有種の保全

①地理的な分布が狭い。

地域的な固有性の高い種であり、分布域が狭ければ狭いほど、その地域での絶滅が地球規模での絶滅につながる。

②利用可能な生育・生息場所の範囲が狭い。

多くの場合、希少な特殊な生息・生育場所に生きる種である。

③同じ生息・生育場所で生活する種の個体数が少ない。

7. 植物調査方法

1) 植物相(フロラ)調査

- ①植生調査地点内の全出現種を同定し記録する。調査方法は、調査区内を踏査しながら、確認種を記録する。しかし、現地で同定が難しい種については、植物を採取し、標本にしてから同定する。また、芽生えや、花実がないなどで同定できなければ、より適切な季節に再度調査する。
- ②希少植物は、普通種に比べて数に限りがあるため、極力採取はせず、写真を撮るか、その場で同定する。また、ハンディな GPS を用いて緯度・経度を記録しておく。

2) 群落調査

- ①判別の難しい植生については、群落の種組成について調べる必要がある。

例：Blau-branchet 法(1964)

8. 調査結果の取りまとめについて

1) 植物リストの作成

- ①植物相調査時に記入した種を基にリストを作成する。

植物リスト（例：白井市）

2) 現存植生図の作成

- ①航空写真を用いて現地の植生区分を行う。わからない区分については、群落調査を行うことで群落名を判定する（GIS を用いて植生図を作成する）。
- ②希少植物の位置を植生図に記入する。

現存植生図（例：白井市）

3) 保全・再生案の策定

- ① 希少植物の保全・再生対策
- ② 植生の重要なエリアにおける保全